

第2期子どもをみんなで育む計画の事業評価見直しに係る部会での
検討内容について

1 事業評価の実施概要

(1) 評価実施時期

アウトプット評価は令和3年度に全事業評価を実施し、そのうえで評価対象事業を審議します。アウトカム評価は令和4年度の計画見直し時および令和6年度の次期計画策定時に評価を実施します。

《部会委員意見》

- ・アウトプット評価は一度全事業評価を行ったうえで、毎年評価を行う事業、隔年で行う事業を選定してはどうか。【橋本委員】【田中委員】

	R2	R3	R4	R5	R6
計画 期間	← 第2期子どもをみんなで育む計画期間 →				
	評価見直し		計画見直し		次期計画 策定準備
アウトプット 評価		全事業	審議後決定	審議後決定	審議後決定
アウトカム 評価			実施		実施

※アウトプット評価（個別施策の進捗状況）

子どもをみんなで育む計画に位置づけられている130の個別施策に関して進捗状況を評価します。

※アウトカム評価（計画全体の成果）

アウトカム評価とは、施策・事業の実施により発生する効果・成果を評価するものです。施策や課題に対して「どんな効果があったか」を検証します。

2 アウトプット評価

(1) 個別施策のカテゴリー分け

個別施策を事業内容に応じて6つのカテゴリーに分類します。カテゴリーごとに評価指標を用いて評価を行うもの、事業実績の把握に基づき評価を行うものに分けます。

≪ 部会委員意見 ≫

- ・相談事業も普及・啓発、整備、支援事業と同様に評価指標を用いて評価してはどうか。【藪本委員】

評価方法	カテゴリー	事業内容	事業例
評価指標を用いた評価の実施	普及・啓発	イベント、講座実施、 情報提供、周知事業	食育教室
	整備	施設、環境整備事業	保育所整備
	支援	サービスの提供、 サポート事業	児童館運営、 ファミサポ
	相談	相談事業	子育て相談
事業実績の把握	連携	関係団体の連携	要保護事業連絡協議会
	給付・補助	各種手当、補助金	児童手当

(2) 評価区分の見直し

事業担当課が事業内容を評価する際に用いる事業評価区分を数値化したほか、評価の基準となる中央値を設定します。評価区分を明確化することにより、評価者によって評価の付け方にバラつきが出ることを防ぎます。

《部会委員意見》

- ・評価区分はBを基準の80%としてS A B C Dの5段階評価にしてはどうか。【橋本委員】

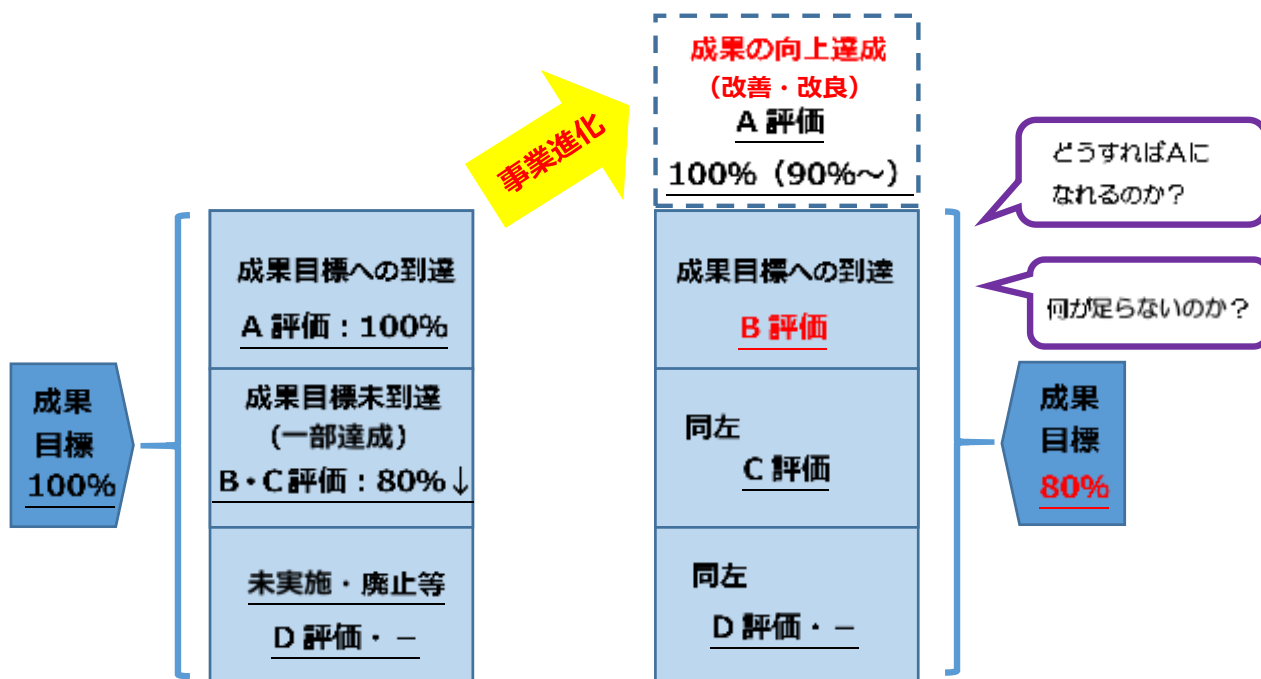
《部会前》

事業目標を達成できているかどうか、4段階で評価を実施。

- A：達成出来た B：どちらかというと達成出来た
- C：どちらかというと達成出来なかった D：達成出来なかった

《部会后》

- A：B評価＋成果を向上させる改善・改良を施した（90～100%）
- B：達成出来た（80～89%）
- C：一部達成出来た（一部達成出来なかった）（80%未満）
- D：達成出来なかった（未実施・廃止・統合など）



(3) 評価シートの見直し

事業評価をする際に用いる事業評価シートを見直し、事業評価の流れや評価の指標の設定を明確化します。

《部会委員意見》

- ・事業評価欄に今後の課題と改善策を設けて、その内容を事業にフィードバックできるようしたらどうか。【橋本委員】
- ・事業目標の設定から各事業担当課が評価を付けるまでの流れを見えるようにしたほうがよい。【藪本委員】
- ・事業担当課が評価を付ける際に、ABCDの付け方が甘くならないような仕組みづくりをして欲しい。【橋本委員】

《事業評価の流れ》※事業評価例は資料3-2参照

■事業目標の設定（第2期計画との整合性を図ります）

- ①前年度の事業内容の振り返り・把握
- ②第2期計画における基本目標、主要課題を達成するための事業概要
- ③目標達成に向けた具体的な取り組み

■事業評価の実施

- ①活動指標（事業実績）「どれだけその事業を実施したか」を評価。
- ②成果指標
「事業を実施したことによりどのような成果が得られたか」を評価。
※ただし、数値目標の設定になじまない、設定できない事業は指標（事業上向き・下向き等）で評価します。
⇒①②の内容を踏まえてA B C D評価を実施します。

■課題点の抽出（活動・成果の振り返り）

※課題だけでなく良い点も継続して実施するために明記します。

■改善策の設定（次年度の取り組みの種）

■事業実施へのフィードバック

3 アウトカム評価

前計画時と同様、市内の子育て支援施設の利用者を対象に、令和4年度に子育て支援施策（計画全体）についてのアンケートを実施します。

◀ 前計画時委員意見 ▶

- ・「知らない」「わからない」と回答した設問について、事業の情報発信方法を工夫した方がよい。
- ・保育所や学童クラブなど違う事業を同じ設問にまとめるのではなく、事業ごとに分けたらどうか。
- ・アンケート結果を審議会資料として公表するだけでなく、活用方法を検討してほしい。
- ・クロス集計を行って、どのような事業にどのような人が満足、不満足であるか分析したほうがよい。

◀ 部会委員意見 ▶

- ・相談事業の存在を知っているが、利用できない人を把握するなど評価の方法を工夫してはどうか。【中山委員】【藪本委員】
- ・アンケートの実施目的に応じて、アンケートの対象者を設定したほうがよい。【橋本委員】
- ・アンケートの配布対象である子育て支援施設を利用しない人の意見を拾うことができない。【橋本委員】

■ 子育て支援施策アンケート実施内容

① 実施場所

保育所、学童クラブ、子育て支援センターなどの子育て支援施設

② 対象者 上記施設の利用者

③ アンケート内容 資料3-3参照

第2期計画の基本目標、主要課題に紐づけた設問を設定します。事業のカテゴリーごとに設問を設定することにより、評価結果を活用しやすく変更します。

④ クロス集計の実施

クロス集計を実施し、更なるアンケート結果の活用を図ります。

- 【例】・相談事業があることを知っているが、利用したことがない人
⇒相談事業を利用することにハードルを感じている人の割合
・相談事業があることを知らず、利用したことがない人
⇒事業の周知方法に課題がある可能性

4 事業担当課へのフィードバックの実施

子ども・子育て会議および会議部会で出た委員意見は事業担当課にフィードバックし、事業評価に活用します。

■過去意見一覧（今後力を入れて欲しい分野、事業について）

- ・子どもの貧困対策について【橋本委員】
- ・いじめ対策について【橋本委員】
- ・市民に対する情報提供・共有のあり方について【藪本委員】
- ・保育や学童の質について【藪本委員】
- ・多様な子どもの居場所（いじめ、障害児のケア等）について【藪本委員】
- ・療育医療や児童発達支援の充実、体制強化について【中山委員】
- ・相談やカウンセリングについて【中山委員】
- ・行政の切れ目の部分における市民活動について【田中委員】
- ・ヘルプマークの認知率把握のためのアンケートの実施について【中山委員】